

# 筑駒生、大学入学共通テスト中止を訴える「ぼくたちに入試を受けさせてください」〈dot.〉

小林哲夫

大学入学共通テストの見直しを求める声が高まっている。

この新入試制度で受験する高校生に、話を聞いてみた。筑波大学附属駒場高校2年の男子生徒である。彼は、9月に文部科学省前で行われた共通テスト中止を訴える抗議行動にも参加していた。

## [【「大学入試英語成績提供システム」の年間スケジュール】](#)

――大学入学共通テストの根本的な問題点はどこにあると考えますか。

入試制度改革の流れをみて感じたのは、試験本番の運営のことをなにも考えていないということです。どのような事務的手続きが必要なのか、いかなる不測の事態が起きるのかについて、まったく対応できていません。きちんと制度設計しているのでしょうか。50万人の受験生が同時に受ける試験なのに、試験内容、スケジュール、実施会場などの決め方が、行き当たりばったりです。入試政策うんぬん以前に、入試実施にあたっての運用能力に問題があります。最近でも、英検の申し込み期限が延期されました。はずかしくないのでしょうか。民間委託といいながら、民間ならばこんなことは通用せず、問題視される事態です。

――英語民間試験の活用はどのあたりに問題がありますか。

地方在住の受験生、ハンディキャップを持つ受験生に対して、大学受験の機会が平等に与えられていません。公平性が保たれていません。ぼくはこの問題で全国の高校生に独自調査をしました。地方の高校生は英語民間試験を受けるだけで交通費、宿泊費がかかってしまい、親にこんな負担はかけられないと憤っています。ハンディキャップについては、吃音の高校生にスピーキングの試験で長めの時間を設けるといった配慮があるのか、全然わかりません。それゆえ、心配しています。英語民間試験を受けるまでの手続き、試験の内容がまだ十分に明らかにされていない。中身が発表されても不備が多い入試制度です。都会の高校に通うぼくにも詳しい情報が入ってこない。ぼくが通っている学校で「共通ID」が話題になったとき、「まだなにも決まっていないのか」「あまりにもずさんだ」という声が多くあがりました。

[トップにもどる](#) | [dot.オリジナル記事一覧](#)

# 筑駒生、大学入学共通テスト中止を訴える「ぼくたちに入試を受けさせてください」〈dot.〉

小林哲夫

――国語で導入される、記述式問題についてはどのように受け止めていますか。

2017年に行われた大学入学共通テストのプレテスト（平成29年度試行調査「国語」）を見て驚きました。国語の問題で資料、課題文を読ませて、80～120字で記述させる設問があります。こんな条件がつけられています。

＜一文目は「確かに」という書き出しで、具体的な根拠を二点挙げて、部活動の終了時間の延長を提案することに対する基本的な立場を示すこと。二文目は「しかし」という書き出しで、部活動の終了時間を延長するという提案がどのように判断される可能性があるか、具体的な根拠と併せて示すこと。（筆者注：課題文は、架空の学校の部活動について）＞

設問条件をガチガチに固めておいて、与えられた文章、資料から必要な情報、キーワードを抜き出せるように誘導して、採点するわけです。これのどこが思考力を問う問題なのでしょう。文科省は資料を読み取り、読解力を試すと言っていますが、しょせん、ことばの抜き出しにすぎません。このプレテストを見て、ある国語教師は「全文を読まず、斜め読みでも解答できる」と指導しているぐらいです。センター試験の選択問題を記述式にしただけの問題であり、採点はこちらのほうがかえって難しくなります。

――数学の記述式問題はどうでしょう。

プレテストでは、数学的な処理について、書かせるものがありました（平成30年度試行調査「数学I・数学A」）。

＜.....階段の傾斜をちょうど $33^\circ$ とするとき、蹴上げを18センチメートル以下にするためには、踏面をどのような範囲に設定すればよいか。踏面を $x$ センチメートルとして、 $x$ のとり得る値の範囲を求めるための不等式を、 $33^\circ$ の三角比と $x$ を用いて表せ。解答は解答欄（い）に記述せよ。＞

[トップにもどる](#) | [dot.オリジナル記事一覧](#)

# 筑駒生、大学入学共通テスト中止を訴える「ぼくたちに入試を受けさせてください」〈dot.〉

小林哲夫

記述式では論理、思考力、表現力、数学的構築力が問われます。ここでは、与えられた日本語の条件をうまく数字のことば、数式に変換することが求められます。思考力、表現力は必要とされず、数式のパターン化を再現できれば正解になります。これも国語と同様、マークシート方式の試験問題と変わらず、解答欄が広くなっただけのこと。そして、採点がより困難になるでしょう。結局、国語も数学も記述で試すといっても、マークシートからマス目に変えただけの話で点数のつけ方が複雑化しただけのことです。これまでの入試の再生産にほかなりません。記述式導入にあたって「暗記重視から脱却して自由な思考を問います」と聞こえのいいことは言っているけれど、そもそも50万人分も採点できるのでしょうか。自由な発想を許す採点が保証されるのでしょうか。こうした試験で思考力を問えるのかという議論ができる人が、文科省にいないのはおかしい話です。

――大学入試制度を変えることで日本の教育全体を良くしていく、という考え方があります。

英語4技能重視によって、小中学校や高校の英語教育はそれに対応せざるを得なくなります。そういう意味では大きく変わることにあります。しかし、そんなことを教育現場でできるのでしょうか。小中学校、高校で英語の先生がしっかり教えられるのでしょうか。英語の読み書き重視の風潮を変えたければ、大学入試からではなく、教育現場から変えるのがスジです。入試を変えれば、という考え方では、それに対応できない小中学校、高校の自己責任、先生が悪い、生徒がダメだと責められることになる。これはおかしい話です。教育を良くするという、崇高な理念を掲げるのはいい。そこには聞こえがいい印象的なことばが、たくさん並べられています。でも、これらは実務的な話とごっちゃに議論されてしまい、実際の運用ではうまく進んでいないのではないのでしょうか。

――教育理念、試験の手続き、試験の内容、それぞれ分けて議論すべきということですか。

はい。いくら崇高な理念であっても実現できないことはたくさんあります。それぞれの段階、テーマできちんと話を詰めていかないとダメでしょう。実際、いま、ほころびがたくさん出ています。そのせいで、英語民間試験一つ取ってみても、高校2年生は混乱しています。文科省は、不安を理解しており払拭するようにつとめる、と言いますが、不安で片づけられてしまうのは困ります。そんな印象を振りまくのは、いい迷惑です。不安ではなく、不満なのですから。

――大学入試はどうあるべきでしょうか。

本来、入試は大学が入学してほしい学生を選抜するために考えるものです。それを国が見

繕って第三者に作らせた試験で試そうとする。これは大学の受験生選抜の意志に反していませんか。入試の仕事じゃないものを入試にさせている。入試を入試ではないものにしていきます。思考力、表現力を身につけさせたいならば、アクティブラーニング、ディベートのような営みは教育現場で行えばいい。それをたかだか1、2時間の入試で思考力、表現力を試すとか、まして、これらを民間に委ねるとか、やり方は間違っています。

――最後に文科省に訴えたいことをお願いします。

ぼくたちに入試を受けさせてください。大学入学共通テスト。ひとことで言えばこれは入試ではありません。入試を入試じゃなくする制度です。構造的な欠陥を多く抱えています。荒唐無稽な制度はいますぐ中止して、見直すべきです。

(文 = 教育ジャーナリスト・小林哲夫)

[トップにもどる](#) | [dot.オリジナル記事一覧](#)